令和８年４月１５日
１３：００～１４：００
醍醐事務所にて
定期巡回のクローバー

令和８年度１回　定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

介護・医療連携推進会議原稿

出席者：内海氏（醍醐学区民生委員会会長：欠席）、高田氏（民生委員）、三好氏（老人福祉委員）、斎藤氏（伏見区地域支え合いコーディネーター）、松井氏（ご利用者家族・地域・レインボーカフェ運営参加者）山田氏（㈱四季代表取締役：欠席）、白川氏（醍醐北部包括センター管理者）、川内氏（醍醐の家ほっこり居宅介護支援事業所）星野（クローバー代表：欠席）、立脇（クローバー管理者）、嶋田（クローバー事務長）（書記）

（1）クローバー挨拶、構成員紹介(別紙：構成員名簿あり)

代表星野より挨拶（欠席）
介護保険は高齢者増加、現役世代減少、人材不足を背景に転換期にある。今後は給付の充填化と負担増、現場の効率化が進み、軽度者は総合事業や保険外サービス、重度者は介護保険で重点的に支える方向となる見込みである。一方で利用控えや地域差拡大、人材確保の困難といった課題も想定されるため、制度に依存しない支援体制の構築が重要となる。地域・家族・事業所・テクノロジーを組み合わせた支援を地域・行政と連携しながら積み重ねていく必要があり、醍醐・山科エリアでの実践が今後のモデルに繋がると考えている。

（2）　R７年 10 月からＲ８年３月末までの事業所の動きについて

○醍醐事業所［山科サテライト含む］について

・ご利用者の推移：R7 年 10 月初旬　　49 名（内入院２名　　夜間訪問型７名）
　　平均要介護度　3.40
　　内　山科　　３３名
　　醍醐　　16 名　　Ｒ７年４月中旬
　　R8 年３月末　　43 名（内入院３名　　夜間訪問型３名）
　　内　山科　　26 名
　　醍醐　　17 名

山科や醍醐に定期巡回のサービス事業所が弊社以外でも増えていますが、周知活動などや説明会の話を聞いてや、利用してみて「今まで理解していた内容と違う」といったことや

疑問点はありませんか？
　川内氏：定期巡回の役割は理解されていて、柔軟な支援の仕組みをされているように思う。特に疑問点などは回りも含めて感じていない。
　白川氏：実際の支援の内容がどの事業所も全く同じようにされるわけではないので、こういう支援が得意です、というご案内をして頂けるとより分かりやすいのではないかと思う。

ローカルルールが発生して混乱を招かないようにと危惧はしている。事業所としての強みもしっかり持って支援していきたい。

・定期巡回のサービスは在宅生活の限界点を上げ、できる限りご利用者が望んでおられる生まれ育った地域で、生活してきたご自宅で、家族とともに最期までと思い活動しておりますが皆様がそれぞれの立場で「在宅生活の限界」と思われる、考えられる、感じられる点はどこでしょうか？
高田氏：先日道すがら転倒された男性がいた。とても足元が不安定で買い物帰りだったようだが、重い荷物を持って帰られるその様子を見てとても心配になった。なにかあったら大家さんに連絡すると仰っていたが、この状態で家で一人でいれるのかな、ととても心配になった。何して欲しいという事もないと思うが、日に一回とか見に行ってくれるような支援があれば良いのにな、と感じた。重い荷物を持って杖で不安定に歩いておられる姿が忘れられなくて心配。民生委員も把握はされてないようだった。週二回の DS は行っているとのことだった。
➡ケアマネや DS や何らかの関わりはあると思われる。通常の状態が分からないが。

三好氏：やはりみんな自分の家が一番良いと言う。老健でおむつだった母親も家に帰ってくると要らなくなった。家は元気の源だと思う。それをどういう風に関わりで繋いでいくか、本人が手助けを見栄をはって壁を作る事が多いのでそれをどのように切り替えたり、進めて行ったら良いかなと思う。
➡本人が困らないと支援を受け入れないように思う、粘り強く関わって行く事が大事だと思っている。

川内氏：全国的にも色んなアンケートがある。認知症で行動障害が出てくる事、排泄ケア（特に夜間）が必要になってくる事、この二点が大きな障壁となる事が明らかになっている。医療において、介護の大変さについての理解をもった認知症の専門医が圧倒的に少なく、さらに介護との連携がしっかりと出来る環境整備も整っていかない事が、在宅生活を継続していくことが困難と感じるケース。
松井氏：母親の薬のサポートを自分ひとりで担うのが非常に大変だった。クローバーの支

援を受けて、今は一旦薬はいらなくなったが、いつ必要になるか分からないし毎日見てくれる安心感も、いざしんどくなった時に頼れるという安心感も得る事が出来た。看護師さんが月に一回見に来てくれる事などお世話になりながら知って行く事があった。
斎藤氏：三年前に全身の癌で絶対に在宅生活は無理と言われた方がいたが、本人の強い思いで訪問看護と介護を使って回りの反対を押し切って最期まで自宅で過ごされた方がいたが、本人の強い気持ちがあれば何とかなるんだな、と気づきとともに認知症の課題も非常に大きい事も感じている。
白川氏：孤独死の数が新聞に載っていた。本人に選択肢がない事がお辛い事ではないかと推察する。最後の自分の望む形を選択するために、定期的に関わってくれる人がキーマンなのではないかと思う。訪問介護はその時間の支援のプロフェッショナルなので難しい問題への対応は難しかったりすると思うが、定期巡回は生活全体を見てくれているので、時にケアマネジャーが気づけない所に気づいて丁寧に向き合ってくださる所が心強いのではないかと思う。

様々な課題が日々の支援において発生するが、その折々で色んな状態の変化、課題の発生に向き合いながら、出来る支援の提案をしながらお支え出来たらと考えている。特に「看取り」は大事にしたいと思っている。

川内氏：山科醍醐は非常に特養はじめ施設が飽和状態なくらい増えてきていると思う。病院や施設を選ぶ事が良くないことは決してないが、あまりに施設がたくさん出来ている事が逆にまだもう少し在宅生活できるのでは？と限界点を引き下げてしまっているかもしれない、とケアマネとして気持ちを引き締めないといけないなと感じる事はある。そういったエピソードは逆にないか？
➡尿路感染で入院された方が「起き上がれなくなったから在宅生活が無理」と言われたケースがあった。まだできる事はあると引き出しをご紹介出来るのに、と忸怩たる思いになった事があった。在宅で支える事は家族にも大きな覚悟が求められるので、押し付けになっては絶対に良くないが、考えて頂く材料の提示をしっかり出来るようにしたいと思っている。

（３）周知活動についての報告（別紙有り）
●醍醐と山科への周知活動（居宅等）
●醍醐小学区社会福祉協議会に参加
ボランティア役員として毎月の会議に参加。6 月 20 日には社協醍醐主催の研修会において、介護保険について弊社が研修を行う予定。
●TUMUGI プロジェクト･･･毎月第 1 金曜日 13 時から 15 時醍醐事務所で裂き織会を行っている。裂き織の活動はボランティアの松井氏や社協のコーディネイターの斎藤氏などの

協力により広がっている。
　弊社の活動の目的としては、この醍醐のこの場所、この地域には介護保険の事業所の定期巡回のクローバーが皆様の近くにありますよ。お困りの際は声かけてくださいねと、地域に密着した事業所となるように活動している。高齢者の居場所になれることも大きな目標である。「高齢者の居場所マップ」にも掲載頂いた。
高田氏・松井氏：楽しい。色んな人の話をたくさん聞けるのがとても良い。話が出れば、相談に行く場として紹介はしてあげられるかな、くらいだが楽しいからさせてもらっている。
➡文庫本の貸出と共に滞在される方は折り紙などしたりしているが、裂き織もその時に提供することも良いかもしれない。何か目的を持って裂き織をすることでいきいきとした生活に少しでも寄与出来ればと思っている。

●池田東学区「すこやか学級」参加。偶数月に参加
つながるプラットフォーム、西野山団地のたこ焼きミーティング、醍醐北部圏域・地域ケア会議、同和園さくら祭りなどに参加。
斎藤氏：醍醐支所管内の多様な事業所が何かしら繋がる事を目的としている。年に二回の会合を考えている。次は 6/3 の 14 時を予定している。繋がるプラットフォームに加盟している団体の場所マップや掲示板を作り、団体同士が関われるようにと考えている。

（4）自己評価外部評価について
集計結果を配布させて頂いている。またご意見あれば教えて頂きたい。

（5）その他
松井氏：利用者家族として、使い方などぜひお話しする機会を設けてもらいたい。
斎藤氏：「山田家の畑」について地域交流のきっかけにしたいと考えている。畑作りの先生を読んでくるとか、イベントのようにもしますので、畑をしたい方がいればぜひ教えてもらいたい。

次回 R 8 年度第 2 回　介護・医療連携推進会議　：令和 8 年 10 月に予定しております。ご協力をお願いいたします。　以上